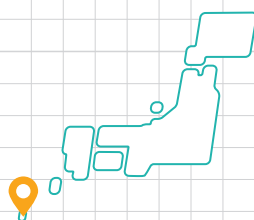


議会運営委員会

日時 令和6年10月15日(火)～17日(木)



詳細はこちら

なんじょう
 沖縄県南城市

市議会としては初となる「議会基本条例」を平成24年3月に制定、同年6月から運用を開始しています。

特徴としては、二代表制の趣旨を踏まえて、市長と議会の機能的対峙姿勢を保ちながら議会自らを改革していくことについて掲げていることと、議案審議等において議員間で課題や論点を導き出す「議員間討議」で、市民に対して議決責任や説明責任を果たすことを議会改革の第一の責務としています。



感想

議会基本条例で執行部に提出を義務付けている資料が、「その事業の目的、財源等」を記載する専用の書式で統一されており、関係ある法令や条例との整合性や、総合計画等との整合性、政策を提案するにあたっての背景や将来にわたる効果なども記載箇所がありました。この一枚(一事業につき)で詳細にわたって検討できる内容となっていて素晴らしいと感じました。



よみたんそん
 沖縄県読谷村

平成21年10月に、沖縄県内で初めて「議会基本条例」を制定しました。

特徴は、①村民参加及び村民との連携 ②質問、質疑における質疑応答の方法 ③政務活動費の交付 ④議会広報活動の4つを明記していることです。

議会の情報は、議会のライブ配信や議会報告会、村民との意見交換会の開催等、積極的に公開して、開かれた議会を目指し、住民の議会への関心を高める取り組みが行われています。

特に、「村民との意見交換会及び議会報告会」は、毎年開催され、村民から議会や村政に対する意見や疑問等を聴き、村政への政策提言に反映させる機会となっています。

感想

政務活動費が支給されており、それを活用し、どの議員も活発に調査研究を行っていました。その裏付けとして、政務活動調査で知り得た知識をもとに、議長以外の全議員が一般質問に立っていました。所属委員会の所管に縛られることなく調査研究できるなど、メリットが多いと感じました。

は え ばる ちょう
 沖縄県南風原町

平成23年6月に議会活性化調査特別委員会を設置し検討を開始して以降、39回に及び会議を開催した他、条例制定に至るまでに、全議員を対象とした研修会や町民を対象とした講演会を実施する等、議会と町民が一体となって学び、条例制定に取り組んでいます。

また、一般町民にもわかりやすい逐条解説をつけた「議会基本条例 保存版パンフレット」として作成され、全戸配布やホームページを通して町民に公開しています。

「議会基本条例」は、町民の意見や社会情勢の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行うこととしており、条文ごとの評価項目を設定し、議会活性化特別委員会において継続した検証が行われています。



感想

「議会基本条例」を定めて終わりではなく、その後の運用、見直し、検証とプロセスを大切にしているのが素晴らしいです。また、この条例で縛られるのではなく、条例があるからこそ議員が活動しやすくなるという本質が守られて運用されている点に、議会としての本質を見ました。

No.80

先進地に学ぶ

文教厚生常任委員会

日時 令和6年11月6日(水)～8日(金)



詳細はこちら

福岡県古賀市 「全小・中学校の水泳授業の民間委託について」

古賀市では、令和5年7月から全小・中学校の水泳授業を民間事業者へ委託し、インストラクターから専門的な指導を、屋内プールで季節や天候に左右されことなく計画的に受けられる環境を整え、児童・生徒の泳力向上につなげています。また、各学校のプールの改修や維持管理費・更新に係る費用の大幅な削減や、教職員がこれまでに担っていた維持管理に関する負担軽減にもつなげています。



感想

水泳授業を民間事業者に委託することで、児童・生徒の泳力向上にも繋がり、教職員の負担も軽減できるため、さくら市の「プール最適化基本方針」の参考にすべきであると感じました。

福岡県志免町

「シーメイト(総合福祉施設)の活用と環境に優しい省エネ設備について」



志免町総合福祉施設の愛称「シーメイト」は、健康と福祉を考慮した総合福祉施設です。施設には、環境にやさしい省エネ設備として、太陽光発電、太陽熱利用ソーラー、外気を取り入れ熱交換による空調を行う省エネタイプ集中管理システム、太陽光と風力を利用して発電し明かりを灯すハイブリット街灯を設置しています。さらに雨水を貯水槽に貯め、散水や火災時の防火用水として再利用にも取り組んでいます。

感想

環境に優しい省エネ設備の導入は、さくら市でも見習うところがあると感じました。



大分県大分市

「大在東小学校(令和6年4月開校)の特色について」

大分県大在地区は、2045年におよそ18%の人口増加が見込まれることから、19年ぶりに小学校を新設し、令和6年4月に大在東小学校が開校しました。

感想

大在東小学校は、ジェンダーフリートイレの設置や、災害時に3日間電力供給が可能な非常用発電機を備えるなど、学校をさまざまな用途に使えるよう整備した小学校です。これからの小学校新設や増築時の参考にすべきと感じました。

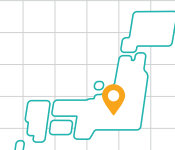


No.80

先進地に学ぶ

総務常任委員会

日時 令和6年10月29日(火)～31日(木)



詳細はこちら

長野県塩尻市 「MEGURUプロジェクトについて」

地域課題を自ら解決できる「『人』と『物』の基盤づくり」を市の総合計画に掲げ、外部の人材を受け入れ、地域・社会課題解決をビジネス視点で解決につなげる官民連携事業を展開しています。「NPO法人MEGURU」を中心に、市、商工会議所、大学、企業等が連携し、「地域の人事部」を立ち上げ、地域が一体となって人材育成や確保、定着を目指す様々な事業や、「副業」を通じて地域外人材と継続的に関わり、地域課題解決を目指す「MEGURUプロジェクト」などを実施しています。



個人の成長と地域の成長が自律的に循環する
地域の人事部事業と関係人口創出事業

感想

人口減少社会における最大の課題を「働き手」と位置づけ、従来企業が向き合う課題であった人材の確保、発掘、教育の部分を地域全体で担っていくという視点には驚かされました。外から人材を確保すべく、地域に縛られず、「副業」という性質を上手く利用し、個人の「自己実現」と地域貢献を両立されている仕組みは見事でした。

山梨県小菅村

「過疎地域におけるドローン物流サービスについて」

少子高齢化による過疎化が進展する中、高齢者や子育て世代の買物の支援が急務となっていました。そこで、村とドローンの開発企業等が連携協定を締結し、ドローン定期配送と買物代行サービスを開始しました。



感想

配送効率の改善という物流面でのメリットだけではなく、人口減少・少子高齢化による労働力不足や過疎地域における交通問題、医療問題、災害対策、物流弱者対策等の様々な社会課題の解決や、住民の利便性の向上、地域の活性化をも推進する大変有意義な取り組みでした。

神奈川県平塚市

「平塚文化芸術ホールを中心とした見附台周辺地区のまちづくりについて」

市民センターを中心に多くの公共施設が立地するエリアで、公共施設の老朽化が課題となっていた見附台地区周辺を再整備しました。その際、地域文化の拠点として平塚文化芸術ホールを整備し、あわせて商業・業務等の施設を誘致し、既存の公園や緑地機能を高めました。それにより、市民の利便性の向上と中心市街地の活性化、新たな賑わいの創出につながっていました。



感想

まちの活性化につながるような大きなプロジェクトにはそれを展開していくだけの用地が必要です。DBO方式(デザイン、ビルド、オペレーション)のように公共が資金調達をし、民間が設計、建設、維持管理・運営を行っていく方式を導入し、民間の発想で事業を展開していく方法を検討すべきだと感じました。

建設経済常任委員会

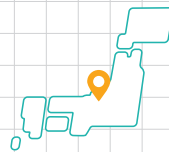
日時 令和6年11月6日(水)～8日(金)



詳細はこちら

富山県富山市

「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」



コンパクトなまちづくりのための要件は、公共交通の活性化、公共交通沿線地区への居住誘導、中心市街地活性化などです。人口規模、財政規模は富山市に及びませんが、本市も目指す方向は一緒です。



感想

富山市の事例を参考に、本市の氏家駅東口開発、蒲須坂駅前周辺開発に活かしてほしいです。

福井県大野市

「道の駅越前おおの 荒鳥の郷」



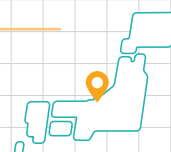
「道の駅越前おおの」の特徴は、近隣でアウトドアスポーツが盛んなことから、カヌーやクライミングが楽しめる施設を併設しています。また福井県内初出店となる「monto-bell」が隣地に出店、キャンピングカー用のRVパークを15区画用意するなど、アウトドアファンの誘客に力を入れています。



感想

本市も道の駅きつれがわにキャンプサイトを設置したが、今後このような活用も検討すべきであります。

石川県小松市 「木場潟公園 東園地 木場潟さとしるべ」



園内が立入禁止となったため、外観からの視察のみとしました。